

研究名

発熱性好中球減少症に対する静注抗菌薬の有効性及び安全性の検討
～セフェピム vs タゾバクタム・ピペラシリン vs メロペネム～

1. 研究の対象

2020年4月から2022年4月の期間に発熱性好中球減少症として入院加療を受け、静注抗菌薬が投与された成人患者

2. 研究目的・方法

発熱性好中球減少症（Febrile Neutropenia：FN）は、血液疾患や固形癌の治療経過中に好中球減少及び発熱を来し、時として重篤な感染症に発展、死に至ることもある病態である。本邦ガイドラインでは、初期治療においてセフェピム、タゾバクタム・ピペラシリン、メロペネムなどの抗緑膿菌に対するスペクトルを有する抗菌薬を可能な限り早期に投与することが推奨されている。しかし、それらの抗菌薬選択において、有意に優れた効果を示す薬剤の報告は一定していない。そこで、FN重篤化のリスク評価や好中球減少期間に基づいた抗菌薬選択の必要性を明らかにし、有効かつ安全な感染治療及びがん治療に寄与するため、当院におけるFN症例に対する静注抗菌薬の選択の傾向を分析し、その有効性及び安全性を後方視的に検討した。

3. 研究に用いる情報の種類

電子カルテ患者情報（後向き研究）

4. 外部への情報の提供

研究結果は学会等で発表を予定していますが、登録された患者の個人情報は個人が特定できないよう匿名化し、パスワードをかけて厳重に管理されます。

5. 研究組織

研究機関名：済生会横浜市南部病院

研究責任者：薬剤部 加藤 一郎

6. お問い合わせ

本研究にご質問、または臨床研究の参加を希望されない場合は下記連絡先までお問合せください。

病院代表：045-832-1111

担当者：薬剤部 木原 星衣